

大人になるのが、こわかった。

ぬっくに出会った頃は、大人になるのがこわかった。なぜなら、自分は幸せになれないと思っていたからだ。

昔の記憶は、自分に自信がなくて、いつも下を向いていた。人と話すのが苦手で、いつも心のバリアをはっていた。友達のつくり方がわからなかったためいつも1人でした。両親に自分の意見を言っても、あまり相手にされず家で話を聞いてもらえる兄弟が羨ましかった。本当は誰かに話を聞いてほしかったのだと思う。

ずっとさみしかった。

ぬっくのコタンに、初めて連絡したとき、久しぶりにたくさん泣いた。久しぶりに誰かに自分の意見を聞いてもらえた気がした。自分の状況を変えるには、家族と離れて自分の人生を生きていく必要があった。ぬっくハウスに入居して、自分の気持ちを知るためノートをつけた。自分の感情をノートにぶつけた

子どもシェルターぬっくハウス 当事者の声〜りいさん〜



19歳で子どもシェルターに入居した彼女は、約3カ月後に退居してグループホームへ。就労継続支援B型で就労を続け、職場の職員さんとも時間をかけてよく話し合った上で、5年越しで一人暮らしを始めました。彼女にニュースレターの原稿をお願いしたところ、「伝えるって難しい」と言いながらも、「自分の経験が、誰かの役に立てばいいなあ。自分のことを語ることは過去の整理にもなるから、この原稿は絶対に完成した形で送りたいです。」

時間がかかってしまって申し訳ないですが、原稿の完成を待っていただきたいです。」とのメッセージが届きました。途中で終わってもいいし書き直したり書き足してもいい。どうか自分のペースで、過去を少しずつ整理しながら書き進んでいくと願っています。みなさま、りいさんへの温かい応援を、どうぞよろしくお願いいたします。

ぬっく活動カレンダー

2021.11~2022.2

- 2021.11.13 … 大阪府、大阪府配偶者等からの暴力の防止及び被害者支援ネットワーク主催「若年層の性暴力被害の実情と被害者支援の取組について」にて講演
- 2021.11.14 … 第15回よみうり子育て応援団大賞 表彰式に出席（奨励賞を受賞）
- 2021.12.17 … 毎日新聞にぬっくの記事が掲載
- 2022.1.14 … よりそいネットおおさか「刑務所ぐらし しゃばぐらし the Border ~若者が抱える問題を考える~」にて講演
- 2022.1.17 … 第1回 H2O サンタ NPO 交流会に参加
- 2022.2.3 … 読売新聞にぬっくの記事が掲載
- 2022.2.8 … 厚労省主催「困難な問題を抱える若年女性支援セミナー」(近畿ブロック)にて講演

たくさんのご支援ありがとうございます!

【ご寄付等くださった方】 9.16~2.15

平内さくら様 猪口絵莉菜様 鍋倉義明様 矢口敬子様 橋本伸明様 鈴木朋子様 梁本康朋様 上川和子様 岡本弘美様 武田大信様 藤田怜様 佐藤町子様 渡辺和恵様 和久易子様 乾真希様 桑山春恵様 宮崎誠司様 藤田さえ子様 伊藤清美様 村上岡様 大井仁美様 大橋夏枝様 岩本明様 大橋さゆり様 金丸英俊様 森内彩子様 沖亜記様 荒木温子様 内藤千賀様 松原薫子様 緑川尚美様 種吉亮子様 高林健次様 真如苑様 株式会社アサヒ企画 津田勝之様 崇照寺 木村慶司様 直の会代表 土居止戈代様 山地史高 てるさファーム&キッチン様 一般財団法人 H2O サンタ様 夕陽丘基金様 大阪ホームサービス株式会社代表取締役 穴見孔治様 めぐりもの様 コストホールセールジャパン株式会社様 他29名



News Letter Vol.12

2022年3月

ご挨拶

当初は2、3年で収束すると言われていたコロナウイルス。まだまだ終わりは見えません。ぬっくも例外ではなく、コロナ陽性者や濃厚接触者が出て、職員体制が一時的に厳しくなることもありました。限られたスペースと人員の中、運営委員とスタッフが知恵を出し合い、児童相談所や保健所などと連絡を取りながら、コロナ対策をしています。自立援助ホーム Re-Co は、2020年4月に開所してからもうすぐ2年となります。退居者も2月末日現在で計9人となり、アフターケアの充実が現実的な課題となってきています。また、日常生活においては、「友人宅に自由に泊まりたい」、「バイト代は全部自由に使いたい」などの声に、どのような段階を経て、自分の意思で門限(22時)までに帰宅しようと思えたり、事前に外泊届を提出したり、将来に向けて貯金しようと思えるようになるのかなど、特に金銭管理や門限についての悩みはつきません。もっとも、子どもたちのさまざまな欲求や行動の背景に、傷つき体験があり、その代償行為や自分を大切に思えないしんどさなどを抱えていることを十分に理解した上で、現実的な提案をしながら、子どもと本当の意味で合意していくこと、その積み重ねこそが自立に向けた支援である。

そのような自立支援方針について、スタッフや子ども担当弁護士(コタン)や運営委員の間で、2年をかけて一定の共通認識をもって、協働して対応できるようになったのではないかと感じています。子どもシェルターぬっくハウスは、2016年4月に開所してからもうすぐ6年です。2月末日現在で、のべ136名が入居し、134名が退去しました。自立援助ホームの運営を始めたことで、改めて、子どもシェルターで過ごす数カ月間の大切さを感じています。物理的に虐待親から離れても、その心理的影響は長く尾をひいて残っています。そのため、初期の段階において、バイトや彼氏などで差し当たっての痛みを埋め合わせ、目をそらすのではなく、安心・安全なシェルターで、一旦ゆっくり休み、心身のケアをしながら、自分のこれからをスタッフやコタンたちと一緒にじっくりと考えていくことは、とても大切なことだと感じています。シェルターでゆったりと過ごすことで、一人ひとりに必要な支援も、全部ではありませんが、ある程度見えてくる面があると感じています。

これからも、ぬっくへの温かいご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。

(理事長 森本志磨子)

ご支援のお願い

ぬっく会員募集

—正会員— 賛助会員—
入会金 5,000円 年会費 5,000円
個人1口 3,000円
法人1口 10,000円

※ぬっくの会員登録は4月から翌年3月の1年単位です。年度途中で入会された場合でも1年分の会費をいただいております。※便利なクレジットカード決済をご利用ください。(手続きした月日に、以後年1回自動決済)

マンスリーサポーター募集

毎月1,000円~
月1回自動決済

現金・物品寄付

●若者向けのシンプルなもの ●入居中や退居後の子どもたちのために
お香、マグカップ、バスタオル、お米、お菓子等
物品のご寄付は、一度事務局へご連絡ください

入会金・会費、ご寄付の振込先

- 三菱UFJ銀行 梅田新道支店 普通預金 0206469 特定非営利活動法人子どもセンターぬっく
- ゆうちょ銀行 ○九九店 当座預金 0208341 特定非営利活動法人子どもセンターぬっく

会員登録はぬっくHPか、QRコードからアクセスできます



ホッとする場所

冬の凍るような寒さを感じると、なぜか寂しさを感じないでしょうか？とても寒いある日、何だかすごく寂しい気持ちで Re-Co に出勤しました。その時、子どもから「おはよう！」と声をかけられると気持ちがホッと温まって寂しい気持ちが消えました。子どもの居場所を作るはずが、いつのまにか大人の私にとっても温かい居場所になっていたのかもしれない。このホッとする気持ちを子どもたちにも感じてもらえるように頑張っていきます。

■ G さん

自立援助ホーム Re-Co スタッフの声

美味しいご飯は心も満たす

私が Re-Co で大切にしていることは、「美味しいご飯を作って子どもたちにお腹いっぱい食べてもらうこと」です。人は、美味しいご飯をお腹いっぱい食べるとお腹も心も満たされます。子どもたちの好き嫌いと栄養バランスを考えてご飯を作ることは容易ではありませんが、子どもたちに「美味しい！また次来た時も作って欲しい。」とか「自分でもこの料理を作れるようになりたいから教えて欲しい。」と言ってもらえた時は、私も作る喜びと幸せな気持ちで心が満たされました。毎日一生懸命に生きている子どもたちの活力に少しでもなれたら嬉しいなと思い、これからもお腹と心を満たす美味しいご飯を作り続けたいと思います

■ No さん



子どもシェルター 「ぬっくハウス」から

肉まんに葛藤

ボランティアさんに教えてもらいながら、肉まんを包むお手伝いをして作りました。皮を破らないように、中身がはみ出ないように、でもたくさん具を入れたい…となかなか苦戦していましたが、形よく、おいしく蒸しあがりました。



いっしょに安心の場を創るパートナーとして

4月からスタッフとして関わっていますが、一番気にかけていることは Re-Co に入居している子どもたちがどんな気持ちで毎日を過ごしているのかです。偶然同じ時期、Re-Co で過ごすことになった子どもたち。Re-Co がなければ出会わなかった彼女たちが、スタッフや他の子どもとぶつかったり、はしゃいだりしながら、そうやって自分らしい Re-Co での過ごし方を模索している姿を見ることがあります。スタッフとして、また一人のおとなとして、一生懸命自分を表現している姿をすべて愛おしく感じます。「ここは、あなたの居場所。」

安心していろいろな感情を出したり、素のままの自分を認めてもらえたりできる場所。そんなメッセージを伝えていきたいと思うのですが、いかんせん、生活を共にしている中ではおとなの思いばかり押し出してもうまくいきません。いっしょに安心の場を創るパートナーとして、子どもたちの思いをくみ取れるようにアンテナを張り続けようと思います。入居している子どもたちはそれぞれ異なった経緯でここにいます。これまでの育ちや経験も違う彼女らに、これからの自立した生活に向けて身につけてほしいこともまた、異なります。スタッフ同士の描く自立のイメージもまた少しずつ違い、彼女らの言動についての反応も様々です。どれが正解なのか手探りの日々ですが、子どもたちが日々つぶやく言葉や表情、態度を受けとめながら少しずつでも前に進んでいけたらと思っています。

■ I さん

誕生日会

私が Re-Co で勤務して、初めて参加した誕生日会がありました。退居した子がお誕生日の子に会いに来たり、みんなでたこ焼きを作ったり、ケーキを食べたりと和気あいあいとした雰囲気でした。本人には内緒で子どもたちとスタッフが準備したメッセージカードを渡すと、「え！？ぜんぜん気づかなかった！」ととても驚いて喜んでくれました。退居してもこうしたイベントで交流があることも、子どもたちの人間関係の輪が広がるように思えて心が温かくなったことを覚えています。

■ Na さん

塗り絵が、きれいに仕上がっています。

細かい作業が好きだと言う15歳の作品です。テレビでお気に入りの曲を流しながら、集中して色塗りを日々続けています。ふくろうが一番の出来でお気に入りとのことで、撮って～との依頼が。こうやって、気持ちが落ち着いたり、達成感が得られたり、自己肯定感が少しでも高まっていくといいなと思います。

